

自主防災組織



多くの人が「避難をする」ということを決断し、避難行動を起こすことができていません。隣近所で声掛けをし、共に避難をするコミュニティ防災の体制を作りましょう。皆さんで協力して家族の命を、そして地域の命を、荒ぶる自然の脅威から守りましょう。



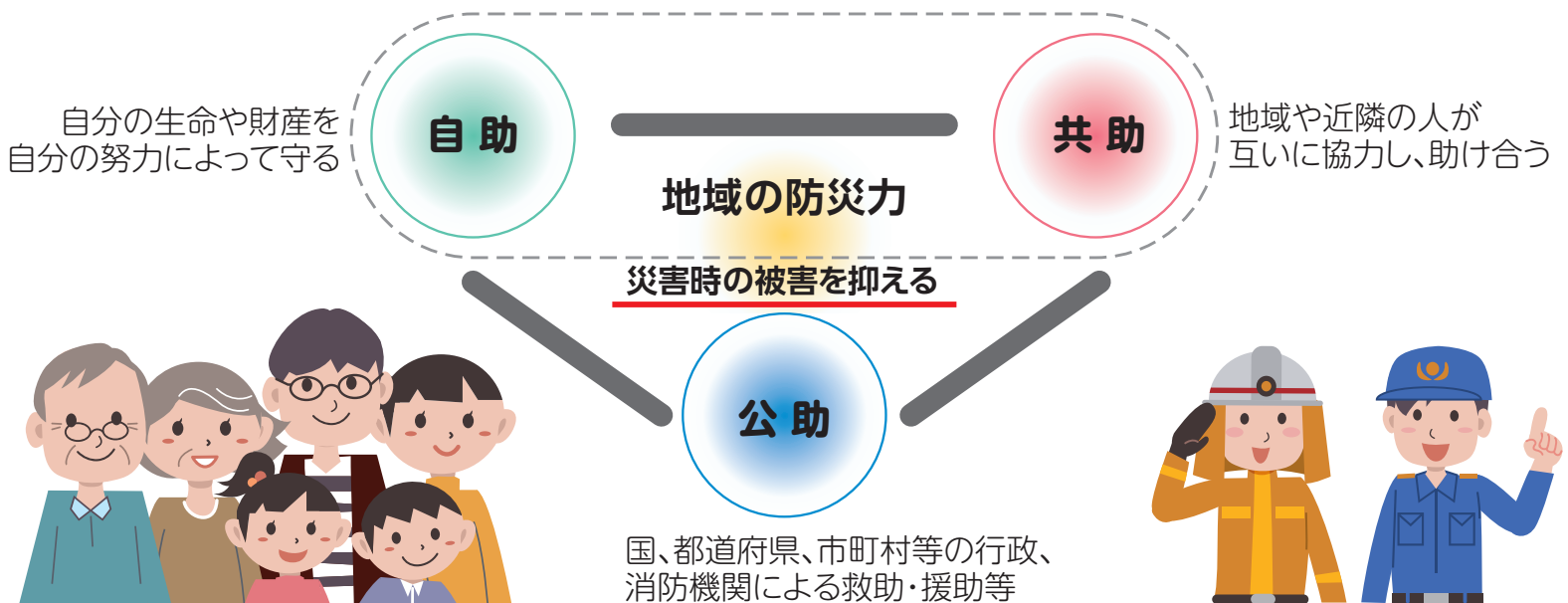
防災訓練に参加しよう！

地域の防災力

自助・共助・公助の連携により災害による被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、行政機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを始めてみませんか？



1. 自主防災組織とは？

- 『自分たちの地域は自分たちで守る』という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織のことです。
- 平常時には、『災害に強いまち（地域）』作りを目指し、地域防災に関する活動を展開します。
※知識の習得・普及啓発・地域の把握（ハザードマップ）・防災訓練など
- 災害発生時には、地域住民の命を守り、被害の拡大を防ぐために行動します。
※情報の収集伝達・避難（誘導）、消火、救出、避難所運営活動など

2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、行政機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
このような時、**地域の皆さんが一緒になって協力し**、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで**被害の軽減を図る**ことができます。また、活動を迅速に進めるためには、「**お互いに顔の見える関係**」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
より効率よく、さまざまな活動をするためにも**事前の準備（=体制づくり）が重要**です。

●平常時と災害時で活動内容は概ね次のような役割になります（青枠：平常時、赤枠：災害時）

情報の収集・伝達	初期消火活動	避難誘導活動	救出活動	給食・給水活動
●住民に対しての連絡体制、手段の検討 ●情報収集・伝達訓練の実施 ●防災知識の普及・啓発 ●公的防災機関との連携確保	●初期消火訓練の実施 ●消火用水の確保、確認 ●出火防止の啓発	●事前に避難路、避難場所を把握 ●避難誘導訓練の実施 ●避難路の安全点検 ※危険箇所（<u>がけ、ブロック塀</u>）などの確認等 ●避難行動要支援者の把握	●応急手当、衛生知識の普及 ●救命講習への参加 ●応急医薬品、救助資機材の確保・点検 ●技能、ノウハウを持った住民の把握 ●救助用資機材の確保・点検	●食料、飲料水の個人備蓄について普及啓発 ●炊き出し訓練の実施 ●炊き出し用資機材の確保・点検
●災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ●地域内の被害情報を収集し、自主防災組織本部へ報告 ●混乱回避、出火防止等の広報	●初期消火活動 - 延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!! ●情報担当と連携して出火防止等の広報	●情報担当と連携して避難の呼びかけ ●安全な経路を選択して避難誘導 ●避難行動要支援者の避難支援 ●避難地での安否確認 ●安否確認による救出救護担当へ情報伝達	●避難誘導担当と連携して速やかな救出 ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意してください ●負傷者の搬送、応急手当の救護 ●避難所・救護所での救護活動へ協力	●食料や水、救援物資等の受入、配布 ●必要に応じて炊き出し